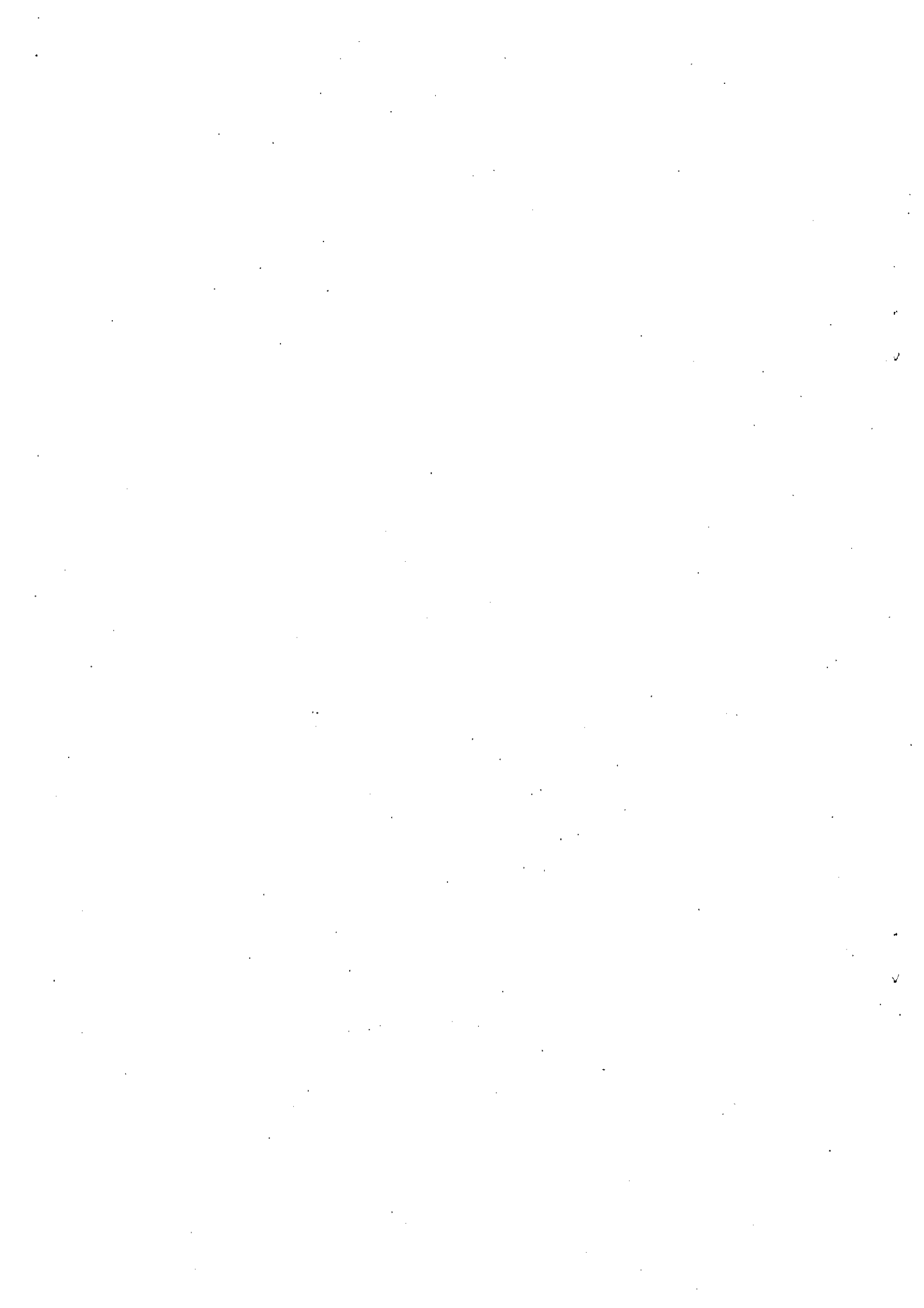


農林水産商工常任委員会提出資料

(平成28年7月19日)

項目	ページ
1 「むら・まち支え合い共生の里」協定調印について 【農地・水保全課】	1
2 鳥獣被害対策の取組状況について 【鳥獣対策センター】	2
3 「木づかいの国とっとりを実現する会」の設立について 【県産材・林産振興課】	4
4 白イカ（ケンサキイカ）のブランド化に向けた取組について 【水産課】	5
5 平成28年度第1回湖山池会議の開催概要について 【水産課】	6
6 香港での鳥取岡山観光物産展の開催結果について 【販路拡大・輸出促進課】	7
7 とっとり・おかやま新橋館の運営状況について（H28年4月～6月） 【販路拡大・輸出促進課】	9

農 林 水 産 部



「むら・まち支え合い共生の里」協定調印について

平成28年7月19日

農地・水保全課

農村と市街地住民組織が連携し、農地や農業用水路など地域資源の保全活動を行いながら、農産物の生産や加工品づくりなどにも取り組み、農業・農村の活性化につなげる「むら・まち支え合い共生の里」について、以下のとおり協定の調印を行います。

1 協定調印式の概要

- (1) 日 時 平成28年7月24日(日) 午前11時から
- (2) 場 所 南部町総合福祉センターいこい荘 (南部町浅井938番地)
- (3) 内 容 ①概要説明 ②協定書署名 ③記念撮影 ④記者会見
- (4) 出席者

地区名	農 村	市街地住民	鳥取県	市町村	
				農村側	市街地住民側
あいみ 富有の 里地区	あいみ富有の里地域 振興協議会長 おかだ よしひろ 岡田 好弘	米子市就将地区自治 連合会長 うえはし こうじ 上橋 晃治	農林水産部長 岸田 悟	南部町長 坂本 昭文	米子市副市長 角 博明

2 協定の概要

- (1) 農 村 あいみ富有の里地域振興協議会 (南部町賀野地区に属する12集落で構成)
- (2) 市街地住民 就将地区自治連合会 (米子市就将地区に属する22自治会で構成)
- (3) 協定期間 平成28年7月24日～平成31年3月31日 (3年間)
- (4) 活動概要 (案)
 - 農村と市街地住民が、以下の活動を協働で実施します。
 - ① 農地や農業用水路等の保全管理
 - ② 遊休農地(40a)を活用したそばの栽培やそば打ち体験
 - ③ 原木椎茸づくり
 - ④ そば粉の販売、椎茸炊き込みご飯の製造販売 (公民館祭、青空市)

(参考) 共生の里の取組状況

地区名	市町名	協定締結日	協定者
とっとり共生の里 (6地区)			
船岡地区(※)	八頭町	H28. 3. 12	鳥取県生活協同組合ほか10団体
五月田地区	智頭町	H27. 3. 20	智頭町五月田集落及び鳥取銀行
余戸地区	鳥取市佐治町	H27. 3. 20	佐治町余戸集落及び旺方トレーディング
小船地区	若桜町	H27. 3. 20	若桜町小船集落及び因幡地区郵便局長会
菅福地区	日野町	H27. 8. 8	日野町菅福地区連合自治会及び伯耆地区郵便局長会
御机地区	江府町	H28. 7. 2	江府町御机集落及びサントリーホールディングス
むら・まち支え合い共生の里 (4地区)			
屋住地区	鳥取市用瀬町	H27. 5. 18	用瀬町屋住集落及び鳥取市醇風地区公民館
河本地区	鳥取市佐治町	H27. 5. 18	佐治町河本集落及び鳥取市富桑地区公民館
福園地区	鳥取市佐治町	H28. 3. 25	佐治町福園集落及び鳥取市城北地区まちづくり協議会
日光地区	伯耆町	H28. 5. 28	伯耆町日光地区協議会及び米子市義方校区自治連合会

※船岡地区の協定締結日は、2期目の活動協定を締結した日です。

鳥獣被害対策の取組状況について

平成28年7月19日
鳥獣対策センター

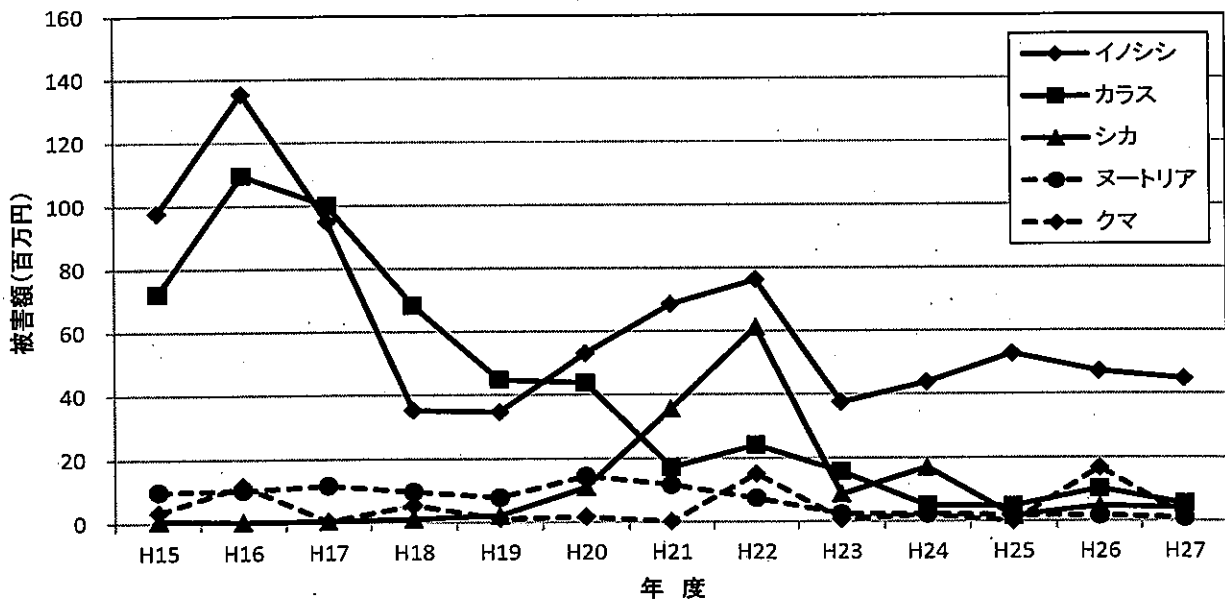
1 平成27年度の鳥獣被害状況

- 野生鳥獣による農作物等への被害額は、平成26年度の87百万円に比べて約3千万円減少し58百万円であった。
- すべての鳥獣で被害は減少したが、特に堅果類（ドングリ）が豊作であったことからクマ被害は大幅な減少となった。
- イノシシ被害は、ほぼ横ばいであり、被害の中心となっている。

〈平成27年度における農作物等への被害額〉

鳥獣の種類	被害額（千円）			主な被害作物 (被害額の割合)	被害状況
	H27	H26	前年比		
イノシシ	44,680	47,098	95%	水稲(57%)、梨(12%) 野菜類(11%)	県下全域で被害が発生。侵入防止柵設置ほ場は被害少。
カラス	5,380	10,143	53%	梨(84%)	全県的には被害が半減したが、西部地区で被害が増加。
シカ	3,994	4,644	86%	水稲(27%)、野菜類(27%)、 造林木(16%)	被害は東部地区が中心であるが、中部地区、西部地区でも発生。
クマ	1,492	16,662	9%	梨(93%)	梨の食害が中心であり、東部地区で被害が発生。
ヌートリア	934	1,683	55%	野菜類(50%) 水稲(48%)	被害は減少傾向。被害は中部地区中心であるが、全県で発生。
アライグマ	0	0	-	-	生息は県東部（鳥取市、岩美町）で多く確認されている。
その他	1,358	6,858	20%	-	サル、アナグマ、タヌキ、カモ、サギ類等による被害が発生。
合計	57,838	87,088	66%	-	前年に比べ34%減少。

〈鳥獣による農作物等被害額の推移〉



年	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
被害総額(百万円)	191	279	212	124	95	129	137	200	67	72	63	87	58

2 イノシシ、シカの捕獲数の推移

○シカの有害捕獲数の増加は、生息域の拡大及び生息数の増加、猟期内外でも捕獲奨励金を交付していること等に加え、平成25年度から国の緊急捕獲等対策事業により捕獲活動経費が支給された効果が大きい。

○平成27年度の冬期に積雪が少なかったことから、イノシシ、シカとも狩猟期（11月～2月）の捕獲数が伸びなかったため前年より捕獲数が減少した。

年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27(暫定)
イノシシ	有害捕獲	2,254	2,144	2,455	2,475	3,914	2,774	3,289	4,830	5,900	6,226
	狩猟捕獲	1,814	2,071	2,079	1,348	3,431	1,918	1,510	2,268	2,442	1,896
	計	4,068	4,215	4,534	3,823	7,345	4,692	4,799	7,098	8,342	8,122
シカ	有害捕獲	90	173	269	845	1,555	2,292	2,054	3,625	5,646	5,337
	狩猟捕獲	97	200	328	435	1,707	867	1,076	1,404	822	495
	計	187	373	597	1,280	3,262	3,159	3,130	5,029	6,468	5,832

(緑豊かな自然課集計)

3 平成28年度の鳥獣被害対策の取組状況

現場に密着した鳥獣被害対策に取り組むため、鳥獣対策センターでは、被害防止技術の実証・普及、人材育成、鳥獣被害情報の収集・提供等に取り組むとともに、侵入を防ぐ対策（侵入防止柵の導入等）、個体数を減らす対策（捕獲奨励金等）、周辺環境整備対策（緩衝帯の整備等）を柱に補助事業を行っている。

(単位：千円)

事業名	主な事業内容	県予算額	事業主体	補助率
鳥獣被害総合対策事業 (県単独事業)	① 侵入を防ぐ対策 ・侵入防止柵の設置等	95,918	市町村 農協等	県 1/3
	② 個体数を減らす対策 ・有害捕獲実施 (捕獲班員の活動費) ・捕獲奨励金交付 (イノシシ・シカ等)			
	③ 集落づくり推進支援対策 ・集落点検の実施等		市町村	県 1/2
鳥獣被害防止総合対策交付金 (国事業)	<ソフト> ・捕獲機材の導入 ・周辺環境の整備 ・実施隊の活動費	151,737	地域協議会	国 1/2以内等 周辺環境の整備 は県1/4嵩上げ
	<ハード> ・侵入防止柵の設置 ・処理加工施設等の導入		地域協議会 (市町村等 を含む)	国 1/2以内 (自力施工は定額)
	<ソフト> ・シカ有害捕獲の活動経費支給		市町村 地域協議会	定額
県推進費		6,169	—	—
計		253,824		

4 電気柵の安全確保措置の周知状況

昨年7月に電気事業法に違反した電気柵の感電死事故が静岡県で発生したことから、次のとおり電気柵の安全使用について周知を図った。

○平成28年3月29日付及び6月15日付で、市町村に対し防災無線、広報紙等による安全管理の周知を依頼した。また、農協等の農業関係団体へは農業者への安全管理指導を依頼した。

○平成28年7月14日の日本海新聞掲載「鳥取県からのお知らせ」コーナーで、電気柵の安全使用について周知した。

「木づかいの国とっとりを実現する会」の設立について

平成 28 年 7 月 19 日

県産材・林産振興課

県産材利用を進め、「木づかいの国とっとり」を実現するために、林業、木材産業、設計、建築の民間団体と県を構成員とする「木づかいの国とっとりを実現する会」が6月30日に設立されました。

今後は、この会が中心となって、県産材利用推進に向けた様々な取組が進められることとなります。

1 目的

鳥取県産材の利用を促進するための現状分析及び課題に対応する施策等を、民間団体と県が連携して検討し、取り組むことにより、林業・木材産業の成長産業化、地域の活性化に資する。

2 構成員及び役員

役 職	所 属 団 体	職 氏 名
会 長	鳥取県木材協同組合連合会	代表理事会長 前田 八壽彦
副 会 長	一般社団法人鳥取県建築士事務所協会	会長 霜村 將博
	一般社団法人鳥取県木造住宅推進協議会	会長 聲高 昌可
監 事	鳥取県森林組合連合会	代表理事会長 前田 幸己
会 員	一般社団法人鳥取県建設業協会	副会長 松浦 幸盛
	鳥取県	農林水産部長 岸田 悟

※事務局：鳥取県木材協同組合連合会

3 今年度の主な取組内容

- 工務店等ユーザーの需要に応じた県産材製品の安定供給システムの検討
- 県産材製品の展示会の開催等、県民や業界を対象にした県産材利用のPR活動
- 県産材製品の情報を網羅した製品カタログの作成、配布
- 大消費地の木材関連企業や団体等との意見交換、県産材製品の商談会等の開催

〈参考：経緯〉

- ・昨年度、県産材の利用推進に係る課題や解決策について、民間業界と県が一堂に会して検討する意見交換会を開催。
- ・今年度は、意見交換会で提案された様々な取組を進めるため、川上から川下までの各団体等の連携組織として設立し、その取組を具体化しようとするもの。

白イカ（ケンサキイカ）のブランド化に向けた取組について

平成28年7月19日
水産振興局水産課

鳥取県産魚PR推進協議会（会長：景山一夫）は、山陰の夏の味覚・白イカの知名度向上と消費拡大をめざし、墨袋を取り除いた「鳥取墨なし白イカ」のブランド化の取組を始めました。

1 鳥取墨なし白イカとは

県水産試験場が中心となって白イカの墨袋を取り除く技術を開発し、漁業者や流通関係者に意見を聞いたところ好評であったことから、6月28日開催の鳥取県産魚PR推進協議会において、新たにブランド化することが決定された。

2 鳥取墨なし白イカの特徴

- 墨が出ないため陳列がきれいであり、また、他の魚との詰め合わせでの発送も可能となり販路拡大が期待できる。
- 墨を洗い流す手間が省ける。
- 調理中にシンク、まな板、服等が汚れないことから消費者に好まれ、寿司屋、日本料理屋からもニーズがあると思われる。

3 ブランド化の取組主体

鳥取県産魚PR推進協議会

4 取組方法

- 対象の白イカは、胴長が25cm以上のもの。
- 当面は、ブランド化意識の高い漁業者（県漁協賀露支所・網代支所・夏泊支所・淀江支所、赤碕町漁協）で先駆的に取り組む。
- 今年度は、市場調査を目的として実施。

5 初競りの結果

7月4日に賀露地方卸売市場で行われた初競りには、鳥取墨なし白イカが5箱（1箱5キロ）かけられ、1箱8千円～1万3千円と、墨袋を除いていないイカの2倍近い値がついた。

6 愛称の決定

7月18日に鳥取市賀露で開催した「白イカ祭り」において、鳥取墨なし白イカの愛称を提示して投票いただいたところであり、今後、この投票状況を参考に鳥取県産魚PR推進協議会で愛称を決定する予定。

参考

(1) 取組の背景

- 白イカ（標準和名：ケンサキイカ及びブドウイカ）は沿岸漁業にとって重要な魚種
 - ・沿岸漁業の漁獲量上位5魚種に入る
 - ・2015年の漁獲量（金額）は、475トン（4.4億円）であり、全国5番目の漁獲量
 - ・白いかは、甘みが強く濃厚な味わいが人気の鳥取の夏を代表する味覚の一つ
- 操業の漁り火も観光資源になるなど漁業以外でも重要
- 鳥取県が産地であることの全国的な知名度は低い。（漁獲量の最も多い長崎県や、活イカをブランド化している佐賀県（呼子（よぶこ）イカ）、山口県（男命（みこと）イカ）が有名）

(2) 鳥取県産魚PR推進協議会の概要

県内水産物の県内外へのPRにより知名度向上、消費拡大を図り、特産品化を推進する目的で設立

<構成団体>

- ・生産者：鳥取県漁協、田後漁協、赤碕町漁協、境港水産振興協会
- ・関連団体：飲食業、観光業、仲買人、消費団体等（12団体）、県食のみやこ推進課、水産課他

<これまでの主な取組実績>

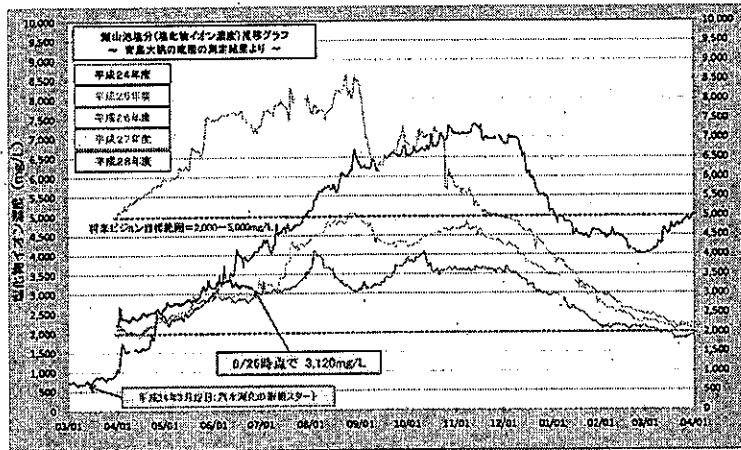
- 松葉がに
 - ・大きさ・品質・型ともトップレベルの松葉がにを「五輝星」と命名
 - ・鳥取県「松葉がにの日」の制定（11月第4土曜日）、「とっとり若松葉がに」の命名
- 岩がき
 - ・県内産の天然岩がきを「夏（なつ）輝（き）」とし、高品質のものにブランドラベルを取付
- ハタハタ
 - ・脂のりの良い大型ハタハタ（全長20cm以上）を「とろはた」と命名

平成28年度 第1回 湖山池会議の開催概要について

平成28年7月19日
水・大気環境課
河川課
水産振興局水産課

6月28日(火)に平成28年度1回目の湖山池会議を開催したので、その概要を報告する。
(出席者：県 野川統轄監ほか関係部長、市 羽場副市長ほか関係部長)

1 平成28年度第1四半期の水質状況報告



(水質の推移と動向)

- ・3月の降雨量が少なかったこともあり、塩分濃度は、前年同期に比べて300 mg/L程度高めめのスタートとなった。
- ・6月上旬までは、引き続き前年同期より300 mg/L程度高めめで推移していたが、同月中旬以降の降雨により、ほぼ前年並みとなった。
- ・6月上旬、池の最深部に強い貧酸素水塊が確認されたが、同月下旬にはそれが一部軽減された。

2 コノシロの斃死原因についての報告

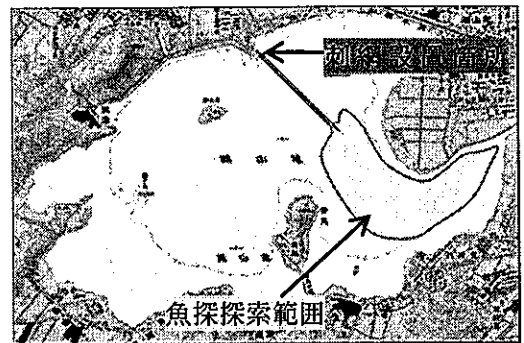
コノシロの斃死原因は、これまで考えられているとおり、次の二点が強く関与していることが考えられる。

○産卵に伴う疲弊

○深場(貧酸素域)での産卵行動によるもの

- ・昨年と同様に6月初旬より、相当量の斃死が見られ、6月20日現在2,030kg(約7,000匹)を回収した。
- ・コノシロは深場で産卵するという生態から、深場が貧酸素状態であっても産卵を行うかどうかを確認するため、魚群探知機及び刺網による調査を行った。

⇒その結果、深場が貧酸素状態となっても、コノシロは産卵のために深場に侵入することが明らかとなった。



採捕されたコノシロ

3 シジミ漁の振興についての報告

(1) シジミ漁獲量が減少した原因について

- ・資源量に対して漁獲量が多すぎることが考えられる。
- ・平成25年に生まれた稚貝の生き残りが少ない。同年に湖内の塩分及び硫化物の濃度が高くなり、シジミの生存に厳しい環境となったことが考えられる。

(2) シジミ漁業の振興策について

- ・漁協が主体となり、水産課等がサポートしながら次の振興策を検討・実施する。
 - 一日の漁獲量の規制、禁漁期の設定等による適切な資源管理
 - 天然採苗稚貝放流等の増殖事業

4 平成28年度の主な事業についての報告

県・生活環境部 (水・大気環境課、衛生環境研究所)	・ピオトープの造成検討(環境モニタリング委員会と連携) ⇒流入水量、水位等のデータを収集中。データを一定程度揃えた後、検討会を開催し、実施設計に当たっての留意点等を確認する。
県・県土整備部(河川課)	・水門部分改築工事 ⇒本年3月から準備工事(仮設)に着手。 10月以降、本体工事に着手する予定。(来年5月完成予定)

香港での鳥取岡山観光物産展の開催結果について

平成28年7月19日
販路拡大・輸出促進課

香港航空が3月に岡山空港に就航し、さらに米子鬼太郎空港への就航も予定されていることから、県産品の販路拡大と観光客誘致を一体的に促進するため、岡山県と連携し、下記のとおり香港で鳥取岡山観光物産展を開催し、あわせて知事によるトップセールスを行いました。

記

1 実施期間

平成28年7月8日（金）～7月13日（水）6日間

2 実施会場

イオンストアーズ香港コーンヒル店 食品売場及びエントランスホール

3 実施内容

食品売場の催事場で両県の加工食品を販売したほか、青果コーナーで両県の果物（鳥取のすいか、岡山のぶどう、白桃）を、水産コーナーで境港の紅ズワイガニ、マグロを販売し、あわせて両県へのツアー情報や観光情報を提供。また、エントランスホールで開幕式典を開催するとともに、鬼太郎、コナンとの記念撮影などのPRイベントを実施。

4 知事によるトップセールス

- ・7月8日の開幕式典でコナンや鬼太郎と一緒に登壇し、広東語ですいか、カニ、マグロ、梨などの食をアピールするとともに、まんが王国とっとりをはじめ鳥取県観光の魅力を紹介した。
- ・香港で初となる同店の「食のみやこ鳥取県推進サポーター」登録を記念し、イオンストアーズ香港の水島吉章（みずしまよしあき）副社長へ認定証を授与した。

5 販売商品

	出品事業者		販売商品
1	JA 全農とっとり	鳥取市	すいか、きぬむすめ
2	ブリリアントアソシエイツ株式会社	鳥取市	ピンク華麗、ピンク醤油、華貴婦人水
3	株式会社かねまさ浜下商店	鳥取市	ハタハタ
4	株式会社テラファーマ	鳥取市	とっとりなしおキーマカレー
5	株式会社林兼太郎商店	鳥取市	二十世紀梨チューハイ、梨汁サイダー
6	中井酒造株式会社	倉吉市	日本酒
7	株式会社ヘイセイ	琴浦町	あごだし、あごふりかけ、野菜ブイヨン
8	株式会社稲田本店	米子市	日本酒、梨リキュール、しそリキュール
9	株式会社越河	米子市	蟹焼グラタン、かにみそ他
10	丸京製菓株式会社	米子市	どらやき、和菓子
11	寿製菓株式会社	米子市	鳥取二十世紀梨ゼリー、白桃デザート
12	株式会社きさらぎ（妖怪舎）	境港市	妖怪キャラメル、鬼太郎クッキー他
13	有限会社川口商店	境港市	ポイル紅ズワイガニ
14	千代むすび酒造株式会社	境港市	日本酒、梅酒、ゆず酒
	（イオンが直接仕入れ）		クロマグロ（刺身、マグロ丼）

※岡山県側は白桃、ぶどう、朝日米、レトルトカレー、米菓、日本酒等を出品

6 売れ行き状況（売上げ結果は現在集計中）

カットすいか、紅ズワイガニ、マグロの売れ行きが特に好調。



開幕式典



紅ズワイガニのトップセールス



クロマグロの解体ショー



鳥取すいか販売コーナー



きぬむすめの販売促進活動



催事場（物産展会場）全体図



コナン・鬼太郎との記念撮影会



鳥取岡山クイズ大会

とっとり・おかやま新橋館の運営状況について (H28年4月～6月)

平成28年7月19日
東京本部
販路拡大・輸出促進課

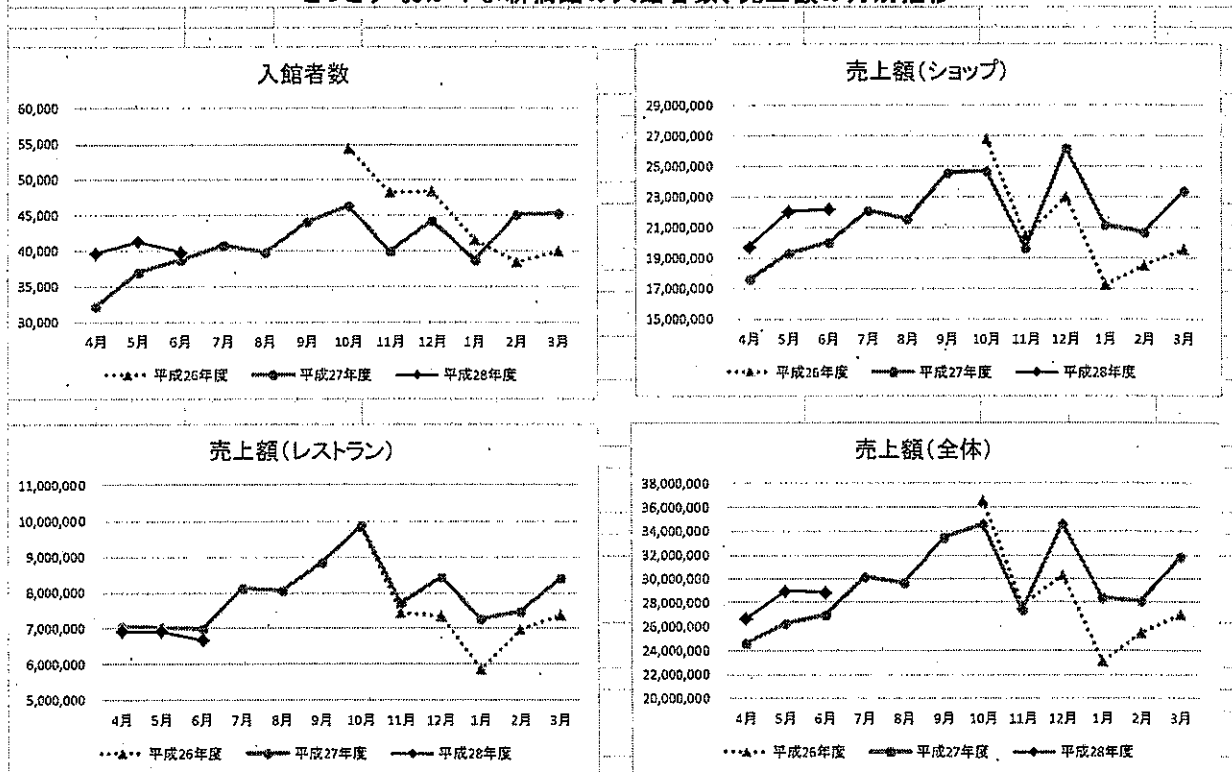
鳥取県と岡山県の共同アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」の平成28年4月から6月までの運営状況について報告します。

- 1 入館者数 120,918名(対前年比112%)
※開店からの入館者数892,686名

2 売上金額

	売上金額(対前年比)	客単価(対前年比)
ショップ(物販)	64,050千円(112%)	1,461円(95%)
レストラン(飲食)	20,512千円(97%)	1,565円(107%)
計	84,562千円(108%)	—

とっとり・おかやま新橋館の入館者数、売上額の月別推移



※平成26年9月は、開館日が少ないため、未記載。(平成26年9月28日オープン)

3 取扱品目数 ※H28.5月末現在

鳥取県:909品目(生鮮品 82品目、加工食品 634品目、非食品 193品目)
岡山県:872品目(生鮮品 47品目、加工食品 739品目、非食品 86品目)

4 催事スペース等の利用日数及び主なイベント

(1) 利用日数(開館日数91日)

	利用日数(対前年比)	うち鳥取県関連(対前年比)
プロモーションゾーン(1F)	39日(74%)	12日(40%)
催事スペース(2F)	60日(143%)	29日(126%)

(2) 主なイベント

- ・とっとり就活応援交流会 in 東京 (4/14)
県内企業に就職した若手社員が、県出身の東京の大学生を対象に県内就職の魅力ややりがいを伝えたと、
「県内で若者が活躍できる企業が沢山あることを知った」、「県内で就職してみたく
なった」などの反響があった。
- ・新橋館寄席～落語立川流 立川らく人～ (4/28、5/22、6/17)
鳥取県出身の若手落語家による落語を披露するとともに、幕間に鳥取県の観光物産や移住定住等
のPRを行い、落語ファンなど新たな層に鳥取県を知っていただき、認知度向上を図った。
- ・ソフトクリームキャンペーン (4/29～5/8)
1階の物販スペースでのソフトクリーム販売開始及び飲食スペースの設置を記念して、両県2種
類のソフトクリームがお得に楽しめるキャンペーンを実施した。飲食スペースは満席になること
もあり、また店内に休憩できるスペースがあり、ゆっくり買い物を楽しめるなど、好評であった。
- ・平日ナイター移住相談会 (5/18)
「日中は仕事で相談会に参加できないので、情報収集のよい機会になった」と好評であった。
- ・とっとり・おかやま郷土料理教室「らっきょう漬け講習会」(5/29、6/3)
問合せも多数あり、キャンセル待ちができるほどの人気があった。また、1階のショップでら
っきょうやらっきょう酢などの購入にもつながった。
- ・鳥取すいかPR
鳥取すいか試食販売会 (6/7) や1階での鳥取すいかソーダ販売 (6/10～30)、催事スペースでのす
いかイベント等のフェアを開催した。ショップ従業員はスイカTシャツを着て、雰囲気盛り上
げ、お客様にも好評であった。
- ・首都圏在住外国人向けイベント「鳥取県観光の夕べ」(6/16)
首都圏在住の外国人を対象に、外国人から見た鳥取県の魅力を伝えたところ、「是非訪問してみ
たい」との声が多数あがるなど、反響があった。

5 観光・移住コーナーにおける相談実績

	相談件数(対前年比)	うち鳥取県関連(対前年比)
観光・移住相談件数	330件(131%)	187件(126%)

※利用者の声

- ・パンフレットだけでなく、自分の行きたいところや聞きたい情報が手に入るのととても助かる。
- ・現地情報として、パンフレットやインターネットでは得られない、相談員が体感した情報や地元ネタを教
えてもらえるのがありがたい。

6 ビジネスセンターの長期利用契約件数

9社9ブース利用(うち鳥取県3社3ブース)

7 チャレンジ商品(県産品のテスト販売)

11社23品目がチャレンジ商品として出展(アンケート数 62件)

8 マスコミへの露出

テレビ 4件、ラジオ 7件、新聞 11件、雑誌 2件、インターネット 4件

9 7月以降のイベント(予定)

- ・鳥取県出身の落語家・立川らく人による寄席 (7/21)
- ・アンテナショップスタッフによる郷土料理の料理教室 (7/24)
- ・雑誌「子供の科学」と連携した鳥取砂丘PRイベント (7/30～31)
- ・因州和紙を使った切り絵の展示会と切り絵教室 (8/22～8/24)
- ・休日移住相談会 (8/27)